

お見舞い

6月には大阪北部で大きな地震がありました。その痛手が癒えないうちに、7月には西日本を中心とした豪雨が、多くの府県の広い範囲において河川の氾濫や土砂崩れなどを引き起こし、甚大な被害がありました。

犠牲になられた方々、ご遺族の皆様にご哀悼の意を表しますとともに、被害を受けられた方々が、一日も早く平穏な生活に戻れますことをお祈り申し上げます。

いまだに行方不明の方も多く、被害の全容が把握できていない部分もあります。その上、今年は全国的に異常な猛暑に見舞われて、復旧作業に従事されている方々にも熱中症で倒れる方が出る事態です。また、感染症への対応、廃棄物の処理など難しい課題への対応も押し寄せてきており、ニュースでは伝わらない事態が様々に起こっていることが想像でき、心が痛むばかりです。

国公幼としても、情報収集に努め、各地の被害状況を確認しながら、組織としての絆を深め、仲間としてなすべき支援、仲間だからできる支援策を考えています。こちらからお電話を差し上げただけでも「気にかけてくれていて有り難い」「勇気付けられた」という言葉をいただき、遠く離れた地からでもできる支援を何かしなくてはと考える日々です。各地で自助・共助の輪が広がり、前を向いて進み始めているといううれしいニュースも届いています。

来週には新潟県での教育研究協議会、8月には徳島県での全幼P全国大会もあり、関係の皆さんと直接お会いする機会があります。全幼Pとの連携も含めて、様々な状況を総合的に判断して、具体的な支援策を決めたいと考えています。

子どもたちの笑顔のために…、保育を愛する仲間のために…。少しでも被災された皆さんのお力になれるようにしたいと思っています。

猛暑はまだまだ収まりそうもありません。くれぐれもご自愛いただきますよう、お祈り申し上げます。

平成30年7月19日

全国国公立幼稚園・こども園長会

会長 あら やま ひろ ゆき
新山裕之